小野市教育委員会
(資料２)

いじめ事前防止対策（「脳科学」と「教育」）

いじめ防止

〈指導体制〉

全体指導計画の作成

・指導方針　・指導計画
・指導組織　・指導条件

教師の役割分担と連携

・各分掌の役割と責任の明確化
・養護教諭の積極的な位置付け
・スクールカウンセラーの役割重視

実践的な校内研修

・いじめに絞った校内研修
・児童生徒理解に関する研修
・指導援助のスキル研修

実態把握・情報収集

・毎月１回生活調査の実施(中学)
・休み時間、部活動、登下校中の実態把握（巡視）

小中連携〇〇〇対策会議

・お互いの個性を認め合い、尊重し合う態度の育成
・子ども主体の活動の推進
（ボランティア活動、いじめ撲滅運動　等）

〈教育活動〉

児童・生徒の意識啓発

・道徳、学級活動における人権に関する指導

一人ひとりの子どもを大切にした学級経営

・自己存在感の感得　・自己の在り方を自ら決定

脳トレーニング

・１日 10 分読み書き計算　・音読とスピード計算
・豊かなコミュニケーション　・手や指を使った作業
・古文や名文の暗唱

集団活動・体験活動の推進

・社会性や情操を培う
・生き方を学ぶ
・ボランティア活動の推進

きめ細やかな学習指導

・学習支援を必要とする児童生徒へのサポート
・分かる喜びのある授業

〈教育相談〉

体制づくり

・相談室の管理と整備（文献・資料等）
・年間計画の作成（教育相談週間等）
・相談チームでの対応、担任への支援
・情報収集、教員研修（事例研修、実技研修）

触れ合いを通じた相談活動

・信頼関係の醸成
・触れ合う時間の確保
・教師と子どもの好ましい人間関係

家庭との連携

・保護者への理解と周知
・保護者への援助
・保護者と担任との心の掛け橋

〈家庭・地域との連携〉

地域ぐるみの対策

・オープンスクールでの啓発
・意識啓発運動
・校外巡視のための人材バンク

家庭との連携

・家庭訪問、学校通信等による理解と啓発
・PTA でのいじめ問題の勉強会
・オープンスクール

関係機関との連携

・教育相談機関との連携
・スポーツ団体、社会教育団体などとの連携
・児童館、公民館の活用
・ボランティア活動の推進

いじめと脳科学の関係

〇前頭前野を鍛えると

・「情緒面」の安定が図れます。
・「健やかな心身」が育成できます。
・「感情」「行動」の制御ができます。
・「いじめ問題」を根底から防止できます。

〇前頭前野の鍛錬は、「大きな道徳教育」です。

心のエネルギーを与える

・分かる楽しさを与える。
　「分かった」と思えたとき、「もっと分かりたい」というエネルギーがわいてくる。
・認める。
　よさや、がんばったところが認められると「よしやるぞ」という気持ちがわく。
一人ひとりの子供について、いつでもその子のプラス面が言えるようにしておくとよい。

社会的能力を育てる

・状況を正しく判断する力
・聞く力、話す力
　まず教師の話にしっかりと耳を傾けることが指導の第一歩。
・相手の立場や気持ちを思いやる力
　思いやりのモデルを教師の側から示す。
・問題を解決する力
　問題解決法のレパートリーを増やす。

信頼感・安心感を与える

・心を理解し、孤独感や孤立感を少なくする。
・居場所をつくり、存在感を味わわせる。
・子どもとともに過ごす時間を確保する。
・何をしてよいか、いけないか基準をはっきりと示す。